看護 あきた

Vol.123

Nursing Akita

平成27年度 4号
公益社団法人秋田県看護協会会報

［目次］

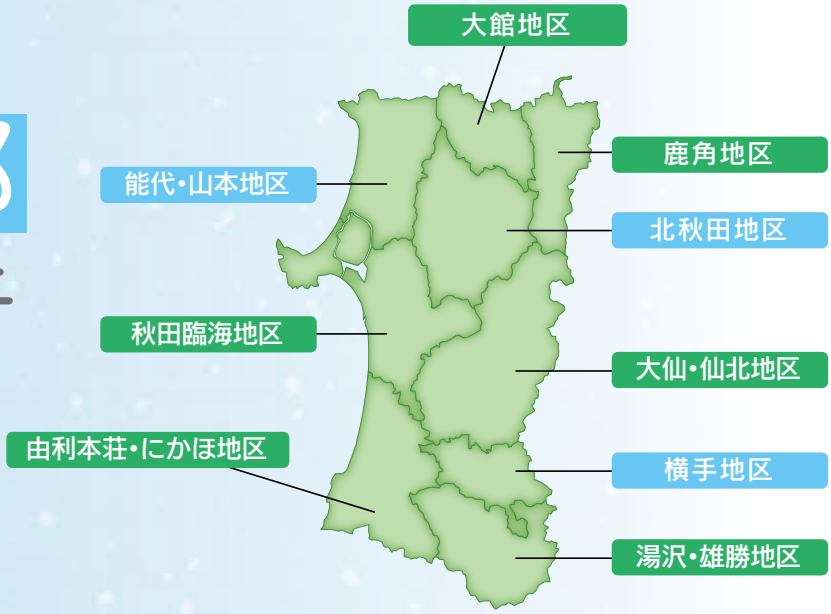
1 地区支部活動報告
3 ファーストレベル研修
4 サードレベル研修

5 シリーズ認定看護師 こまち紹介
6 理事会だより
8 シリーズ 医療・看護安全委員会 安全情報

平成27年度会員数 7,059名（H27.9.30現在最終）

保健師 261名　助産師 310名　看護師 6,271名　准看護師 217名

地区支部活動報告



能代・山本 地区支部

能代・山本地区支部長　佐々木　冷子

能代・山本地区支部の会員数は546名おります。今年度の目標は「会員の協会活動の理解と、地区支部活動の活性化」です。事業の計画は1月の集会、5月と11月は研修会が企画され5月の研修会は、最近の傾向としては、当地区にはいろいろな分野の認定看護師がおりますので、講師となっていただいております。又11月は3ブロックの研究発表会があります。土曜日の午前中、各施設からたくさんの方たちが参加します。それは他施設の看護実践や看護技術の改善が発表されるからです。参加者は研究で得られた知識や理論を更に看護実践へ活かし、看護の質向上を目指し、日々努力しております。教育目標でもあります「看護の知識、技術、資質の向上を図り自己成長できる」を会員や他の職種、一般の方も巻き込み連携強化を図っております。また5月は「町の保健室」事業を行っており、いとく能代ショッピングセンターで、また9月は「老人看護月間」を能代市文化会館にて地域の方々とふれあい、血圧測定、健康相談など行い、看護協会活動のアピール等行っております。高校生が夏休みに入ると、管内三高校の1年生が3病院へふれあい看護体験の実習にやってきます。病院の平均年齢が一瞬グーンと若返ります。交流会は一番老いも若きも燃えました。交流会で教わった「8種類のおせち」何種類出来たか年明け聞こうと思っております。こんな感じであわただしく1年は(アットいう間に)過ぎていきます。少ない会員ですが、看護職の連携を通して気軽に話し合え、語れる支部でありたいと思っております。

「看護フェアー」

「看護研究発表会」　活発な意見交換

「老人看護月間」
血圧測定や健康相談

北秋田 地区支部

北秋田地区支部長　畠山　淳子

「看護研究発表会」

11月7日(土)9時30分から北秋田市民病院会議室において、2年ぶりに看護研究発表会を行いました。発表は4題、身体拘束に関するもの、口腔清潔に関するもの、看取りの取り組みや保健師の活動など多岐にわたる内容となりました。今年度の特徴としては、地域で活躍する保健師会員や診療所勤務の会員からの発表が出された事です。普段なかなか他職種の仕事内容や活動についてふれる機会が少ないなか、この様な発表の場をとおして相互理解を深める事ができたと思

います。又、診療所における看取りの取り組みについての発表では、今話題の地域包括ケアとの関連もあり、参加者も真剣に聞いている姿が印象的でした。活発な質問や意見交換も行われ、顔の見える繋がりが更に深まった1日となりました。今後も枠にとらわれずに多くの発表ができるよう企画していきたいと思います。

横手 地区支部

横手地区支部長　佐藤セツ子

「看護研究発表会」

平成27年12月11日(金)、平鹿総合病院講堂において看護研究 発表会を開催しました。

参加者は61名でした。講評に秋田県看護協会の工藤一子先生をお招きし、発表演題4題、活動報告1題の計5題の発表がありました。内容は「看取り」「在宅看護」「術後早期退院」「心破裂」、活動報告として「エイズ」など、とても興味深いものばかりでした。

アンケートにも「他病院の取り組みを知ることができてよかった」「今後の看護に活かしていきたい」ま

た、工藤先生の講評に関しても「とてもわかりやすく丁寧に講評して頂いた」「今後の研究に繋げていきたい」などの記載が多くあり、参加者にとって、とても有意義な発表会になったと思われます。年1回ですが、地域の他施設の看護を知る場として、また、施設間の意見交換や学習の場として、改めてこの事業は必要だと感じました。

「会員交流会」

平成27年9月9日(水)、女性センターにおいて、参加者24名で会員交流会を行いました。午前はピラティスストレッチを、午後はエコクラフトで籠を作りました。どちらも日頃の仕事とはかけ離れた内容だったので、会員同士の交流も活発に行われ、リフレッシュもでき、とても満足したよい一日でした。

平成27年度　認定看護管理者教育課程

ファーストレベル

教育目的

1. 看護専門職として必要な管理に関する基礎的知識・技術・態度を習得する。
2. 看護を提供するための組織化並びにその運営の責任の一端を担うために必要な知識・技術・態度を習得する。
3. 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力を高める。

実施内容

1. 研修期間：平成27年5月21日～8月28日(28日間、計150時間)
2. 受講者数：65名　修了者数：65名
3. ファーストレベル教育課程を受講しての学び(12月4日の閉講日、修了者の発表から一部抜粋)

管理に関する基礎的知識・技術・態度の習得と諸問題を客観的に分析する能力を身につけ、管理的視点で役割・立場を認識した言動がとれるようになりたいと思い受講を希望しました。講義がはじまり、用語の定義、自施設の概況など自分の知識の乏しさを思い知らされ、こんな状態で受講して良かったのだろうか?と不安と後悔からのスターでした。しかし、いつしか学ぶ楽しさに変化して言ったのは、一緒に受講した仲間の存在でした。励まされ、多くの刺激を得ることが出来ました。グループワークや何気ない会話から、他施設の情報を得ることができ、自施設と比較し参考にしたり、このまま継続してもいいと確認できたりと、日常業務とは違う環境での学びは、貴重な時間となりました。日々の学習カードと単元毎のレポート提出は、文章表現の苦手な自分にとっては大変な作業でしたが、部署の問題や課題を明確にし、強みや良さをどう活かし、改善に向けてどう取り組むべきかを言語化することで、自分なりに整理する機会になり、自分はどう行動するべきか見えてきた気がします。

講義を通して先生方の看護に対する思いや姿勢を聴くことができ、何気なく話されている言葉のひと言ひと言が私の心に響いた。自分自身、看護についてこれほどまでに深く考えたことはなかったように思う。漠然とした看護観と正義感、そして感情論だけでは人は動かせない。しっかりとした理論の上に成り立つ自分の考えを持ち、それを明文化して相手に伝えることが大切であることを学んだ。今の自分にはまだまだ足りないことが多いが、今回見えたたくさんの課題を、焦らず、自分にできることから、一つずつ丁寧に、誠意をもって取り組んでいきたい。

リーダーとしてまだまだ力も感性も未熟と感じている。今回の受講で学んだことを、現場の問題に照らし合わせてすぐに実践できる力も自信もない。しかし、日々の業務の中での小さな「気づき」を大事に、一つひとつしっかりと向き合っていくことで、学びを実践に変えられるよう成長したい。

主任としてすべてのメンバーと会話し相手の話を聞く姿勢、傾聴し相手の気持ちを受け止めメンバーを客観的に分析してみること。さらに一人ひとりの得意分野を見つけ、苦手な部分はカバーし采配できるように関わっていく重要性があると感じた。私たちの職場には様々な考え方の違いや思いを持っているメンバーがいる。その経験や知識が大きな力と変わる。目的はなにか自分たちの目指す方向性を見失わないように管理職としてのチームでの役割を認識しマネジメントしていく必要がある。自分達の取り組みは患者にとって最良のサービス提供に繋がることを忘れてはいけないと実感した。

看護という仕事は一人では成り立たず多職種が共同して行うものであり、それを実行することにより、患者や家族へのより質の高い看護が提供できるものである。私は、患者や家族がつらい状況にあっても、少しでも笑顔になれるように自分も笑顔を絶やさないように心掛けている。患者や家族が何を考え、望んでいるのかをしっかり受け止め、心が通い合っていることを実感できるサービスの提供ができるように、看護師という職業に誇りを持ち、日々自己研鑽に努めていきたい。

第 8期生（平成 26年度修了生）認定看護管理者教育課程 セカンドレベル修了者 フォローアップ研修実践報告会

日　時	平成28年2月5日（金）　9:30～16:00
場　所	看護センター　第一研修室
ねらい	認定看護管理者教育課程セカンドレベルでの学びを実践で活用している状況を紹介しあい、マネジメント能力の更なる拡大をめざす。
参加者	平成26年度修了者　32名

参加者の感想（実践報告書から一部紹介）

- セカンドレベル研修で、管理とは大きく何かをするということより、私自身のスタッフへの細やかな関わりが大事だと学んだ。修了後の1年間は、スタッフに寄り添い、近いところで支えたいと思い実践活動をした。
- セカンドレベルを受講し、看護部の理念の実現にむけて、組織がもつ資源や資産を活用し、目的を達成するためのマネジメントについて学んだ。看護管理者としてスタッフ個々に合わせた役割を与え、その与えられた役割を安心してのびのびと実践できるよう、人間関係や周囲環境を調整することが不可欠であると考える。今後は、スタッフ個々の将来を見据え、それぞれの特性に応じ、段階的に関わることで自己の目標が達成できるよう、また働き続けられる病棟を目指して、看護管理者としてのマネジメント能力を発揮していきたい。
- スタッフがいきいきと働き続けられる職場の条件は「人間関係・職場風土」を整えることである。ワールド・カフェを通して、スタッフと「どんな病棟にしたいか」について話し合ったら、病棟の雰囲気が変わった。

セカンドレベル受講しての学びを、日々の看護実践に活かした成果について、熱く、熱く、語り、情報交換が展開されました。
今後のご活躍を、心から期待します。

認定看護管理者教育課程　専任教員　工藤一子

認定看護管理者教育課程　サードレベル第一期生修了

教育理念

多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた看護管理者を育成する体制を整え、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献する。

教育目的

1. 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために看護の理念を掲げ、それを具現化するために必要な組織を構築し、運営していくことのできる能力を高める。
2. 看護事業を起業し運営するにあたって必要となる経営管理能力に関する知識・技術・態度を習得する。

実施内容

1. 研修期間/・前半：2015年　9月1 日～10月 2 日　・後半：10月31日～11月16日
　・インターバル：10月5日～10月30日の期間に実習・演習（2.5日間）　全：33日間（198時間）
2. 受講者数：14名　修了者数：14名
3. サードレベル受講して　－能力向上へのチャレンジ（修了生の学びから一部抜粋）－

サードレベル受講は、看護管理者としての自分と看護師としての自分を見つける機会になった。自分はどうしたいか、どうありたいか、自分に向き合う時間になった。
「看護が好きで、看護で患者さんとスタッフを笑顔にしたい」という思いが確認でき、自分自身が、看護の仕事でやりがいを持つことが、看護管理者としての能力向上につながると考えた。

私のミッションは、自施設の事業をより発展させながら継続させることである。それを達成すべく、秋田県の障害児者のため、サービスを受ける人、提供する人が、いきいきと過ごすことができるよう今回の学びと受講者のネットワークを活用していきたい。

看護管理者のマネジメントを進める3つの力「ニーズを読む力」「分析を深く行う力」「実行する力」を意識して実践していく。
サードレベル修了は、終了ではなく、始まりである。
看護管理者としてスタッフに何を大切にしているか伝える。
患者、家族との日々の過程を大切にする組織、学習して変化を恐れない組織づくりをしていきたい。

年齢に関係なく、学ぶ喜びを感じることができた幸せな時間であった。

研修アンケート結果

職　位	（人）
看護部長または相当	1
副看護部長または相当	8
看護師長または相当	4
その他	1

職　種	（人）
看　護　師	13
助　産　師	1
保健師	0

経験年数	（人）
25 年～ 30 年	1
30 年以上	13

受講費用	（人）
全額公費	2
受講料のみ公費	1
受講料半額公費	1
全額私費	10

待　遇（複数回答）	（人）
出張扱い	6
公休扱い	4
年休扱い	4
その他	3

所属施設	（人）
病　院	12
病院・介護福祉系施設	1
在　宅	1

所属施設の病床数	（人）
100 ～ 299 床	4
300 ～ 499 床	7
500 床以上	2
所属施設なし	1

目標の達成	（人）
達成できた	0
ほぼ達成できた	14
あまり達成できなかった	0
達成できなかった	0

研修内容の活用	（人）
活用できる	8
ほぼ活用できる	2
一部活用している	4
あまり活用できない	0
活用できない	0

研修を他者に勧めるか	（人）
すすめたい	11
すすめない	0
どちらともいえない	2
無回答	1

本教育課程の周知（複数回答）	（人）
教育計画冊子	9
看護あきた	4
ホームページ	5
上司の勧め	5
同僚の勧め	1
その他	2

本教育課程の選択理由（複数回答）	（人）
研修目的	8
研修内容	7
受講要件	6
研修期間	3
研修開催場所	10
自身の健康状態	1
受講料	1
その他	2

研修全体を通しての感想（複数回答）	（人）
問題解決の方向性が得られた	10
充実感が得られた	10
期待どおりの内容だった	5
リフレッシュになった	5
受講者間のネットワークが広がった	11
課題を共有できる仲間ができた	11
その他	1

秋田県看護協会で待望のサードレベルが開講し、第1期生14名が修了しました。講義、演習の中で素晴らしい講師との出会い、受講生同志ではネットワークの絆を深め、多くの学びをし、何にも代え難い宝物を得ことと思います。
今後のご活躍を、心から期待します。

認定看護管理者教育課程　専任教員　工藤一子

わたしのまちの看護師さん

シリーズ 認定看護師

「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

土田 美保子さん

こまち File No.41

地方独立行政法人　秋田県立病院機構　秋田県立脳血管研究センター
摂食嚥下障害看護認定看護師

今取り組んでいること

私は、秋田県立脳血管研究センターのSCUに所属し摂食嚥下障害看護認定看護師として活動を行っています。

秋田県は、高齢化率が年々上昇しています。また、脳卒中発症や加齢に伴った摂食嚥下障害を有し、安全においしく食べ物を摂取できない方が増えています。

このような中、患者さんやご家族の「食べたい」、「食べさせたい」という思いを支えることができるよう、多職種と協働しながら看護を行っています。

現在は、摂食嚥下機能の評価および誤嚥性肺炎、窒息、栄養低下、脱水の予防、適切かつ安全な摂食嚥下訓練の選択および実施などに取り組んでいます。

これからやりたいこと

「口から食べる」ことは脳の働きを活性化し、心身の健康につながります。今後も発病により住み慣れた環境を離れ入院生活を送っている患者さんや地域で生活している方にとって、「食」が楽しみのひとつとなり、生きる希望につながるよう、支援していきたいと思っています。

沼倉 るみ子さん

こまち File No.42

JA 秋田厚生連雄勝中央病院　小児救急看護認定看護師

今取り組んでいること

私は雄勝中央病院の小児科と産婦人科の混合病棟に勤務しています。小児救急看護認定看護師として、「すべての子ども達の笑顔のために」をモットーとしてケアを提供したいと考えています。

現在、病棟に入院してくる子ども達のケアだけでなく、小児科外来で「生後１ヶ月健診での面談」を行っています。育児相談や育児の振り返りを通してお母さんやご家族の不安を軽減する事を目的としています。

これからやりたいこと

今後、不安を抱いている子どもや痛みを抱えている子どもがそれらを乗り越えるのを支えていける様、子ども達ひとりひとりにあったケアを行っていきたいと思います。また、ご家族の育児に対する、悩みや不安、退院指導などのサポートもしていきたいと思います。

第7回 理事会

日　時■平成28年1月29日(金)
　　午前10時00分～午後2時45分
場　所■秋田県看護協会　第一研修室
出席者■理事18名、監事3名
欠席者■理事1名

1. 議　事

1) 平成28年度秋田県看護協会重点事項(案)について …… 承認
2) 平成28年度秋田県看護協会事業計画(案)について …… 承認
3) 平成28年度教育計画企画(案)について …… 承認
4) 平成28年度秋田県看護協会通常総会議案及びプログラム(案)について …… 承認
5) 平成27年度補正(修正)収支予算(案)について …… 承認
6) 平成28年度秋田県看護協会会長表彰受賞者(案)について …… 承認
7) 公益社団法人秋田県看護協会委員会規程の一部改正について(案) …… 承認

2. 協議事項

1) 日本看護協会への要望について
2) 新「会員情報管理体制」実施に伴う定款細則の改正案について
3) 平成28年度予算積算状況について
4) 平成28年度秋田県看護協会理事会開催日について
5) 教育会議について

3. 報告事項

1) 日本看護協会理事会報告
2) 事業報告
　(1)業務執行状況報告
　(2)地区支部事業報告
　(3)庶務報告
3) 会計報告
4) 各地区支部集会について
5) 訪問看護システムの入札結果について
6) 秋田県看護行政懇談会報告
7) 平成28年度日本看護協会通常総会一般参加者について
8) 平成28年度秋田県看護協会改選役員・推薦委員候補者の推薦、平成29年度日本看護協会代議員及び予備代議員候補者の推薦について
9) 新「会員情報管理体制」について
10) 平成28年度日本看護協会行事日程について

※概要を知りたい方は、当協会ホームページ(http://www.akita-kango.or.jp/)をご覧ください。
ホームページにアクセスできない方は、当協会にご連絡ください。

平成28年度 役員等立候補者の公示について

平成28年度3月2日
秋田県看護協会選挙管理委員会
委員長　鎌田　さち子

平成28年度役員等の選挙について、次の候補者が立候補されましたので公示します。

1. 理事・監事候補者

（任期－理事2年、監事4年　所属－平成28年2月5日現在）

役職名	氏　名	職　種	所属施設名	協会活動歴	摘　要
理　事	髙　島　幹　子	看　護　師	秋田県看護協会	現　理　事（会　長）	推薦委員会推薦
理　事	菅　原　トシヱ	助　産　師	ひがし稲庭クリニック	現　理　事（副会長）	推薦委員会推薦
理　事	福　田　幸　子	看　護　師	秋田県看護協会	現　理　事（常　務）	推薦委員会推薦
理　事	石　黒　博　子	看　護　師	在宅（秋田市）	現　理　事（会　計）	推薦委員会推薦
理　事	守　屋　陽　子	看　護　師	在宅（秋田市）	現理事（看護師職能）	推薦委員会推薦
理　事	畠　山　光　世	看　護　師	由利本荘医師会病院	現　地　区　副　支　部　長	推薦委員会推薦
理　事	畑　山　ひふみ	看　護　師	大曲中通病院	現　地　区　副　支　部　長	推薦委員会推薦
理　事	佐　藤　京　子	看　護　師	平鹿総合病院	－	推薦委員会推薦
理　事	畑　山　奈保子	看　護　師	町立羽後病院	－	推薦委員会推薦
理　事	小　林　智　秋	准看護師	由利組合総合病院	－	推薦委員会推薦
監　事	川　村　啓　子	看　護　師	杉山病院	現　監　事	推薦委員会推薦

2. 推薦委員会委員候補者

（任期－2年、監事4年　所属－平成28年2月5日現在）

氏　名	職　種	地区	所属施設名	協会活動歴	摘　要
野　崎　富士子	看　護　師	中　央	土崎病院	現　推　薦　委　員　長	推薦委員会推薦
石　橋　昭　子	看　護　師	県　南	雄勝中央病院	元　地　区　副　支　部　長	推薦委員会推薦

平成29年度 代議員等立候補者の公示について

平成28年度3月2日
秋田県看護協会選挙管理委員会
委員長　鎌田　さち子

平成29年度日本看護協会代議員及び予備代議員について、次の候補者が立候補されましたので公示します。

1. 代議員候補者(推薦委員会推薦)

（代議員数8名、任期－平成29年度1年間、所属－平成28年2月5日現在）

No	推薦区分	氏　名	職　種	所属施設名	協会活動歴
1	保　健　師　職　能	酒　井　陽　子	保　健　師	在宅（大仙市）	現保健師職能委員長
2	助　産　師　職　能	篠　田　玲　子	助　産　師	在宅（秋田市）	現助産師職能委員長
3	看　護　師　職　能	工　藤　文　子	看　護　師	秋田県立脳血管研究センター	現看護師職能委員
4	看　護　師　職　能	辻　　宏　子	看　護　師	リンデンバウムいずみ	現看護師職能委員
5	看　護　師　職　能	小　林　智　秋	准看護師	由利組合総合病院	－
6	北秋田地区支部	浪　岡　佳奈子	看　護　師	北秋田市民病院	－
7	秋田臨海地区支部	大　山　京　子	看　護　師	外旭川病院	元法人改革準備特別委員会委員
8	横　手　地　区　支　部	佐　藤　京　子	看　護　師	平鹿総合病院	－

2. 予備代議員候補者(推薦委員会推薦)

（予備代議員数8名、任期－平成29年度1年間、所属－平成28年2月5日現在）

No	推薦区分	氏　名	職　種	所属施設名	協会活動歴
1	保　健　師　職　能	小　川　直　子	保　健　師	由利地域振興局福祉環境部	現保健師職能委員
2	助　産　師　職　能	冨　樫　昭　子	助　産　師	秋田赤十字病院	現助産師職能委員
3	看　護　師　職　能	澤　田　瑞　木	看　護　師	由利本荘医師会病院	現看護師職能委員
4	看　護　師　職　能	猪　股　洋　子	看　護　師	介護老人保健施設かみの里	現看護師職能副委員長
5	看　護　師　職　能	勝　田　弘　美	准看護師	湖東厚生病院	－
6	北秋田地区支部	織　田　祥　子	看　護　師	北秋田市民病院	－
7	秋田臨海地区支部	成　田　雪　美	看　護　師	秋田厚生医療センター	現理事（秋田臨海地区）
8	横　手　地　区　支　部	高　橋　礼　子	看　護　師	市立横手病院	－

安全情報 No.10

医療・看護安全委員会

口頭指示の解釈間違い事例

事例1	執刀医	（胃管を）抜いてください	麻酔科医	（胃の空気を）抜いてください
事例2	医師	（喉まで挿入したが、上部消化管の検査をしていない）	看護師	検査をしていない（ため、内視鏡は使用しなかった）
事例3	医師	検査当日、薬（アスピリン）を飲ませてください	看護助手 看護師	検査当日、（前投）薬を飲ませてください
事例4	看護師	塩化ナトリウム注10％を（端末に）打ってください	研修医	塩化ナトリウム注10％を（患者に）打ってください

事例2　医師は患者に上部消化管内視鏡検査を開始したところ、嘔吐反射が強く喉まで進めたところで検査終了となった。医師は内視鏡に入ってきた看護師に「検査していない」と伝え、内視鏡を検査台にかけた。看護師は医師の言葉を「内視鏡を使用していない」と解釈した。医師と看護師の会話を聞いた内視鏡洗浄担当の看護助手も内視鏡は使用していないと解釈し、洗浄・消毒しないまま別の患者に使用した。

事例4　看護師は前日に使用した塩化ナトリウム注10％20mℓの実施済み入力を依頼するため研修医に「打って下さい」と伝えた。研修医は、静注するという意味の「打つ」と解釈し、塩化ナトリウム注10％を患者に静注した。

口頭による指示や依頼をする際、送り手は相手に**意図が伝わる言葉**を使用しましょう。
受け手は**復唱**などで再確認しましょう。

日本医療機能評価機構　医療安全情報No.102参照

ナースセンターからのお知らせ

看護師等の届出制度

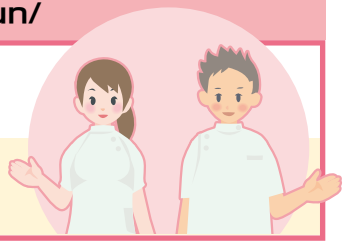
離職される看護職の方へ

対象者　退職される方・就業をしていない方
就職する予定がない方・看護職以外で就業中の方

ナースセンターに届出しましょう

届出専用サイト「とどけるん」又は 秋田県ナースセンター窓口へ
アドレス　https://todokerun.nurse-center.net/todokerun/

秋田県ナースセンターは、離職者の状況に合わせた支援を行います！



【お問い合わせ先】
秋田県ナースセンター
TEL 018-832-8810　FAX 018-853-4376
E-mail：akita@nurse-center.net

事務局からのお知らせ

「看護の日」フェア開催

開催日時　平成28年5月8日(日)
10:00～14:45

会場　秋田拠点センター アルヴェ
1階　きらめき広場

対象者　：　秋田県民（どなたでも参加可）

お問い合わせは　秋田県看護協会☎018-834-0172 まで

研修のお知らせ

在宅医療推進保健師養成研修

日　時　平成28年6月29日(水)
10:00～16:00

会　場　秋田県保健センター
2階　第一研修室

講　師　：　公益社団法人日本看護協会　常任理事　中板　育美 氏

中堅期保健師コンサルテーション事業

	開催日時　9:30～16:00			開催場所
前期プログラム	7月12日(火)・7月13日(水)			保健センター
中期プログラムⅠ	8月18日(木)	中期プログラムⅡ	9月15日(木)	3階　第3研修室
後期プログラムⅠ	11月25日(金)	後期プログラムⅡ	12月9日(金)	5階　第1研修室

● 講義のほか、受講者4～5名程度のグループを編成し、　コンサルタントから実践に伴なう指導助言を受ける。

第6回 秋田ELNEC-Jコアカリキュラム 看護師教育プログラム 参加者募集

目　的：患者・家族に必要なエンド・オブ・ライフ・ケアを包括的に学習し、ケアの質向上を図る

開催日時　平成28年
6月4･5日(土･日)
9:00～17:45(予定)

会場　秋田大学大学院
医学系研究棟講義室

応募期間　平成28年
4月1日(金)
～4月20日(水)

応募方法
秋田県緩和ケア研究会ホームページをご参照ください
http://akita-kanwacare.com/

お問い合わせ先
itotomo@hs.akita-u.ac.jp　または　018-884-6519
(秋田大学 臨床看護学講座　伊藤)へご連絡願います

後　援　公益社団法人秋田県看護協会、秋田県緩和ケア研究会　ほか

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

寒さも少しずつ和らぎ、雪解けの季節となりました。会員の皆様は年度末を慌ただしく過ごされていることと思います。
今年度も予定通り年4回の「看護あきた」の発刊を終えることができ、委員一同安堵しております。
内容も一部リニューアル、看護職の頑張りや思いなども伝えることができたと思います。今後も広報活動や、看護職を広くアピールしていくために、会員一同頑張っていきます。
ご支援よろしくお願いいたします。

（記：嘉藤）

看護あきた Vol.123 平成27年度 4号
Nursing Akita

発　行　日／平成28年3月10日
発行責任者／公益社団法人 秋田県看護協会 会長
発　行　所／公益社団法人 秋田県看護協会　秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172
印　刷　所／秋田中央印刷(株)　秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577